

愛・地球博 理念継承エリア検討委員会
第4回委員会資料

1 「アイデアのひろば」のまとめ（基本的な考え方）	1
2 テーマゾーンにおける機能展開	3
3 博覧会の理念を継承したイベント例	4
4 管理運営	5
5 テーマゾーンの空間イメージ（参考）	6

1 「アイデアのひろば」のまとめ（基本的な考え方）

委員会における委員の意見等を踏まえ、アイデアのひろばにおける基本的な考え方を整理すると以下のとおりである。

1) アイデアのひろばの位置づけ

「アイデアのひろば」は「愛・地球博記念公園 暫定基本計画」において、博覧会の理念と成果を継承する場として位置づけている。

「愛・地球博記念公園」
健康で精神的な豊かさと楽しさに満ち、県民と共に成長・進化し続ける21世紀型の公園

「アイデアのひろば」
博覧会の理念と成果の継承の場

博覧会のテーマ ~自然の叡智~

- ・テーマ「自然の叡智」のもと、人と自然の新たな関係を創造する試みを通じて、持続可能な社会づくりや新しい生き方についてのメッセージを発信する

博覧会で具現化された領域

【地球大交流】

- ・NGOや市民の参加
- ・文化の多様性の相互理解（国際交流）

【地球的課題の解決策の提示】

- ・新たな社会行動や社会システムの採用
- ・最先端技術の適用

博覧会の成果

- ・市民参加を原動力に世界中の人々との市民同士の交流の輪が広まった
- ・博覧会の楽しい記憶、連帯感、感動が、来場者一人ひとりの心の財産として生き続ける
- ・来場者が環境への意識を実感・理解し、身近な日常生活での行動につなげるきっかけをつくった
- ・地域への経済波及効果

2) アイデアのひろば展開の方針

「アイデアのひろば」の位置づけを踏まえ、展開の方針及びゾーン配置を行う。

方針

交流

- ・国際、地域、県民による交流を促進する
- ・多様な体験交流の場を通じて子どもたちの社会性を養う

環境

- ・生命の大切さを学ぶ環境学習の場とする
- ・持続可能な地域形成のシンボルとなる整備・管理運営を行う

博覧会開催を記念

- ・博覧会の感動・記憶を呼び起こす市民同士の交流や展示、体験を行う
- ・博覧会を世界の人々と共有した歴史を残すと共に活かし、未来につなげる

市民参加

- ・地域の人々（県民、企業、大学、行政などを含む）と共に創り、成長する公園づくりを行う

ゾーン配置

以下の2つのゾーンを配置した。

アイデアのひろば

記念ゾーン

- ・博覧会開催を記念するゾーン
- ・博覧会の歴史的な位置づけとその記録の展示
- ・記念樹の森の配置

テーマゾーン

- ・博覧会の理念と成果を引き継ぐゾーン
- ・「交流」と「環境」をメインテーマ

3) 各ゾーンの展開

方針を踏まえ、各ゾーン毎においてテーマと展開イメージを設定する。

展開の視点

- ・世界や世代間との継続的な交流を通して人と人とのつながりを再認識し、主体的な活動につなげる
- ・未来を担う子どもをはじめ、多くの人たちが、自然に遊び学ぶことで自然の仕組み・すばらしさに感動し、生命の大切さを理解する
- ・博覧会の記憶を呼びさます
- ・市民、企業、大学、地域等と連携する

ゾーン別のテーマ

【テーマゾーン ~地球丸ごと体験交流ひろば~】

愛・地球博が顕在化させた「地球市民」としての連帯感を生き生きと発揮し、持続可能な地球社会創生に向け、情報発信・体験交流する

国際交流

地球を愛する・知る

健康と環境に配慮した生活

自然・生命の力に学ぶ、創造する

【記念ゾーン ~語り継いでいく愛・地球博のメッセージ~】

愛知県で開催された愛・地球博の来場者の感動を再び呼び起こし、またメッセージを後世に語り継ぎ、未来につなげる

記憶を刻む

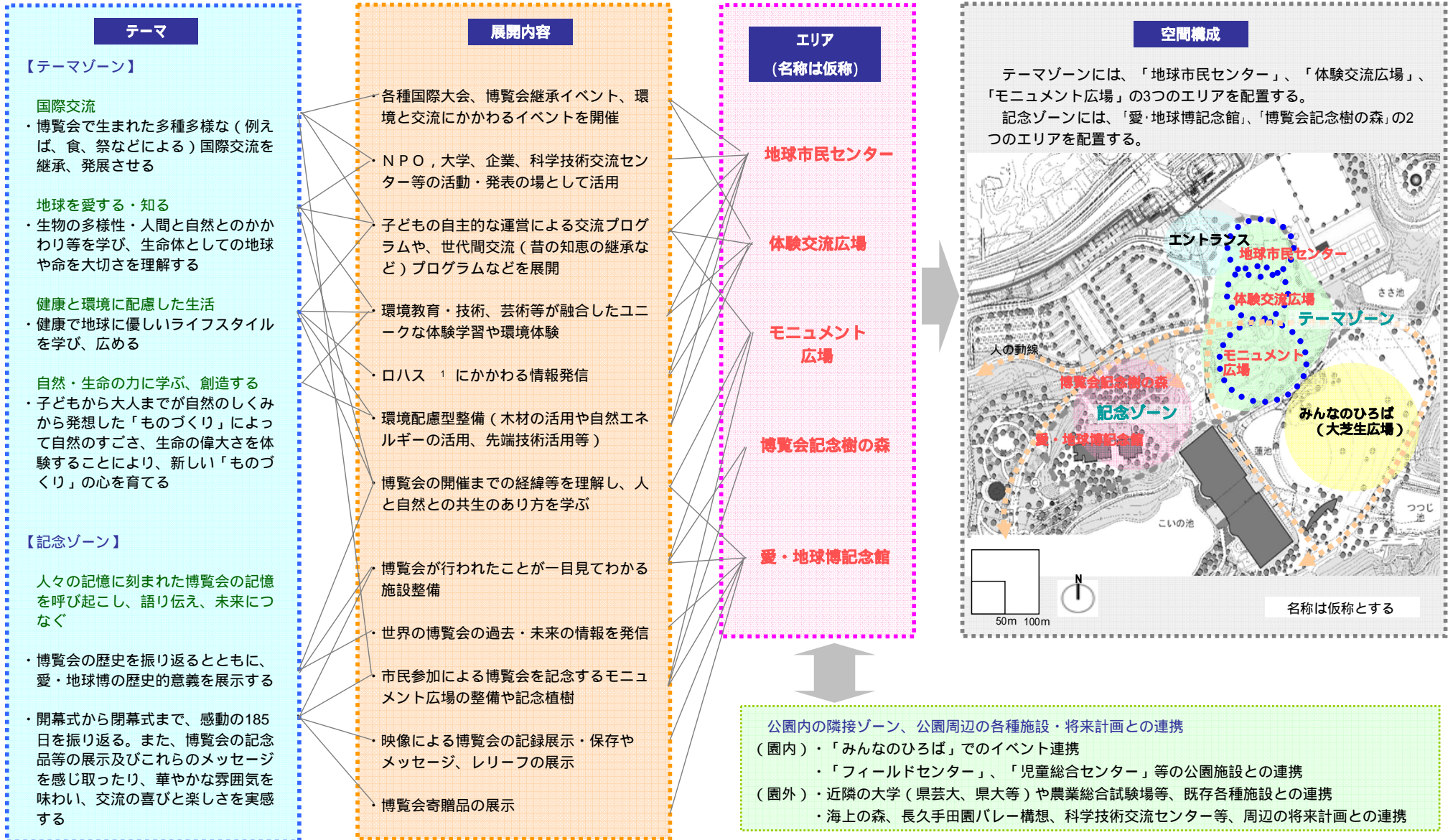
感動を呼び起こす

語り伝え、未来につなぐ

博覧会の成果である「市民参加」の育成

- ・公園全体計画で設置が方向付けられている「公園マネジメント会議」（市民と行政とのパートナーシップにより構成された公園管理運営の会議）による市民協働型の管理運営を先駆的に行う。
- ・博覧会を契機に、活発化した市民、NGO、NPOなどに活動の場を提供する。

4) 展開内容



2 テーマゾーンにおける機能展開

アイデアのひろばのうち、テーマゾーンは『地球丸ごと体験交流ひろば』として、「環境」と「交流」の2大方針に沿った利活用を図るエリアであり、市民参加・交流活動のインキュベータとなる機能を持たせるような様々な市民活動の場を提供する。

1) 地球市民センター

市民参加・交流活動の核、公園管理運営拠点

【目標】

- ・愛・地球博の理念と成果から導かれたテーマに基づきながら、博覧会で培われた「地球市民」としての連帯感を生き生きと発揮できる空間構成
- ・地球市民のための参加・交流センター機能と公園管理運営機能の一体的構築

【機能と展開案】

- インフォメーション機能：・園内の花や緑の情報や公園の歴史等の情報発信
・公園全体の活用情報や参加体験学習情報の発信
・プログラム申し込み、各種施設やイベント参加申し込み
・市民参加、市民活動情報発信、参加案内
- 市民参加・交流活動機能：・各種ワークショップや多彩なスクール形式の集会に対応できる使いが
ってのよい多目的室、ワークショップルーム
(右記別枠欄参考1、2参照)
・NPO等の市民活動の発表の場として提供
- 展示・情報発信機能：・NPO、企業、大学、関連機関などに活動や発表の場として提供
・展示内容は、公園の基本テーマと整合させる
・三世代に対応した情報発信を行う
例) 地球環境と健康のためのライフスタイル紹介・展示・体験、
環境技術の紹介、資源循環展示、生物模倣技術の紹介、
情報発信スタジオ、生活の知恵の伝承等
- 運動機能(屋内型)：・屋内スポーツや健康づくりスペース
・ワークショップや屋内型小イベントの場
- 休憩・飲食・販売機能：・休憩スペース
・料理の提供や、記念商品の販売スペース
- 防災支援機能：・発災時には中核広域防災活動拠点の支援センターとして活用できる機能を持たせる
・発災時は、公園管理運営オフィス、多目的室、屋内運動施設等を転用し活用
- 公園管理運営機能：・公園管理・機能管理事務局、指定管理者事務局、NPO等、参加団体対応の
会議室等

2) 体験交流広場

多目的・多用途機能の空間

【目標】

各種イベントを開催することができる雨天時でも利用可能な多目的多用途機能空間の創出

【機能と展開案】

- 大規模イベント開催機能：・博覧会の記憶を蘇らせる記念イベント、環境や交流に関わるイベントなどの
各種イベント・プログラムなどに対応可能な空間
(開催するイベント例については、次項参照)
- 市民参加・交流機能：・広くて明るい空間での自由な市民参加・市民交流の場
- 防災支援機能：・発災時に中核広域防災活動拠点として、支援部隊のベースキャンプ、救援物資、復旧資材
の集配場等として活用できる機能を持たせる。
・イベントや市民参加交流活動の規模や内容に応じて、体験交流ひろばの南側に広がる大
芝生広場や隣接する屋内運動施設との一体的な利用を図る。

3) モニュメント広場

「愛・地球博」のメッセージを刻んだ、みんなで創るモニュメント広場の整備

【目標】

「市民参加」により、博覧会開催を記念する広場を記念事業としてみんなで創り上げる場

【機能と展開案】

- 記念公園としての象徴機能：・「市民参加」により成功を収めた博覧会を象徴するに相応しいモニュメント広場
を、計画段階から整備まで、専門家の指導のもと市民参加により整備
具体例) 参加者各々が後世へ語り継ぐ博覧会のメッセージを刻み込んだ修景、
フレンドシップ事業での国際交流に関わるモニュメントデザイン、
県産材の活用 など
- 市民等多様な主体の参加の場としての機能：・大学、企業、フレンドシップ事業に係わった市町村や大勢の市
民及び関係機関等の幅広い参加で実施
・長期に渡って活動が継承できるような仕組み
・整備後は、各種屋外型ワークショップ空間として活用
- 公園マネジメント会議活動機能：・公園マネジメント会議活動の1つとして位置づける

参考1 市民活動プログラム例

- ・各広場や活動スペースで展開される市民団体や企業、研究機関の自主企画プログラム例を以下に示す。
- ・屋内、屋外など、各々の内容にあった場所で展開する。

<ロハス>

・・・NPOなど環境やロハスに関わる団体等

- ・ヨガ・ピラティス講座：自然の中での屋外健康づくり教室
- ・日本文化知恵講座：昔の日本のロハスな知恵紹介や伝承等

<環境技術>

・・・企業や研究機関に関わる団体等

- ・自然に学ぼう実験室：バイオミメティックの実験講座
- ・生物不思議体験隊：生物や自然の不思議を学ぶWS等



・健康づくり教室



・実験講座開催

参考2 市民活動の展開にあたってのパブリックの意見

展開内容の検討にあたり、博覧会にかかわった主要な関係者へ意見の聞き取りを実施した。

- ・実施団体：博覧会に参加した近隣のNPO、愛・地球博ボランティアセンター
- ・意見要旨：以下のとおり

- 市民参加により成功を収めた博覧会を開催した場所であることを踏まえ、この場所が持つポテンシャルを生かす
- 環境関連のNPOの活動の場、公園の中の自然環境レクリエーション関連のボランティア活動拠点など。
- 公園の他の施設、ソフトと連携し、集客性に配慮
- ワークショップ空間として閉じた配置ではなく、公園の他の施設、ソフトと連携し開かれたイメージとする。
- NPOの積極的な活動参加を促すためには、活動場所の集客性をPRしていく。活動を多くの来訪者に見てもらうことが継続的な活動において重要。
- あまり作り過ぎない屋内・屋外活動空間が必要
- 活動場所は屋外、屋内でプログラムの内容に応じた場所が用意されているとよい。
- 大きさは、学校教室より少し大き目くらい、作りすぎないほうがよい。
- 参加・体験・楽(学)習型のプログラム展開
- 人を呼ぶにはソフトに力を入れ体験型の展開とし、ソフトはNPOやボランティアに担ってもらう。

3 博覧会の理念を継承したイベント例

公園の核であるアイデアのひろばの機能を効果的に発揮させ、エリアの魅力が一層高められるような充実したソフト展開の柱として、博覧会の記憶を蘇らせる大規模な記念イベントや、博覧会の理念の継承というテーマに沿った目的・内容で、大勢の人々が参加する大小のイベントや企画展示を実施する。

また、博覧会の開催を記念するイベントの1つとして、テーマゾーンに市民参加方式で博覧会を記念するモニュメント広場を整備する。また、記念ゾーンでは、博覧会の記録を展示する施設（愛・地球博記念館）において企画展示を定期的にも実施する。

1) イベント開催

博覧会の理念を継承したイベント開催

- ・博覧会で行われた事業やイベント、博覧会を記念する日を制定し博覧会の記憶を蘇らせるような大規模なイベント等を集中的に展開する。
- ・全国で展開される基本理念継承発展事業との連携等、博覧会の理念を継承した各種イベントの積極的な誘致を図っていく。
- ・イベントは、ワークショップ、展示を組み合わせ開催する。
- ・各イベントは、その内容・規模にふさわしい場所（地球市民センター、体験交流広場、モニュメント広場、みんなのひろば等）で展開する。
- ・愛・地球博記念館では、周年記念等、定期的に企画展示を行う。企画展示は、収蔵品のほか、開催当時の展示物や、博覧会の理念や成果を象徴するものを含めたものとする。
- ・これらのイベントの多くは、市民参加団体等に自主企画として実施して頂くが、必要に応じて県や指定管理者と市民参加団体との協働も想定する。
- ・参加・協力する組織としては、愛・地球博への参加団体、科学技術交流センター等関連機関、近隣大学、その他テーマに関連する団体や組織などが挙げられる。



博覧会の記憶を蘇らせる交流イベントの開催

企画・運営参加団体の例（NPO/NGO等）

- （愛・地球博 地球市民村参加）
- ホールアース研究所、ECOPLUS、ドングリの会、REPP、エコプラットホム東海、キブ協会、自然育児友の会、オイスカ、地球緑化センター、中部リサイクル運動市民の会、生態教育センター、ソムニード、birth、岡崎匠の会
- （ロハス関連）
- ローハスクラブ、アースガデン等
- （環境技術、バイオミメティック関連）
- Japan for Sustainability 等

2) モニュメント広場の整備

- ・モニュメント広場の整備もイベントとして行い、博覧会を継承するシンボリックなイベントとして開催する。また、長期に渡ってこの活動が継承できるような仕組みを構築する。（内容は前頁参照）

主なイベント展開例

1. 大規模イベント例
環境に係るイベント：「国連持続可能な開発のための教育の10年」に基づく行事等の連続誘致、支援等を中心具体的なイベント例・・・ESD- J 全国ミーティング、環境技術展など
交流に係るイベント：愛・地球博での交流イベントの継続や交流事業の記念イベント等具体的なイベント例・・・世界フレンドシップ交流会世界の祭フェスティバルなど
テーマ展開に係るイベント：ロハス、環境技術等具体的なイベント例・・・世界のバイオミメティック技術展など
2. 企画展示例 （愛・地球博記念館等で開催）
グローバルコモンウィーク（グローバルコモンを単位として企画展示）
愛・地球博のテーマ展開（博覧会のテーマ、サブテーマを改めて認識し、それらを展開する企画展示）
映像祭（博覧会に関する映像を展示し、博覧会開催当時の感動を再び喚起する企画展示）

1) 「アイデアのひろば」の管理運営体制づくり

「アイデアのひろば」は、博覧会の理念と成果の継承の中心となるエリアであり、特にテ・マゾ・ンは、愛・地球博で培われた「地球市民」を継承発展させるために情報発信・体験交流する空間である。これらの機能が最大限に発揮されるよう、管理運営を先駆的に取り組んでいく。

なお、愛・地球博記念館については、展示品の入れ替えなどの管理が必要となる。

初期段階

この段階は、県と指定管理者が中心となりながら、運営管理体制へ参加・協力してもらってボランティア、NPOなど市民とのパートナーシップにより整備を進める。また、企業や研究機関、大学との連携を図り、専門家からの助言も受けながら、初期体制づくりを行う。

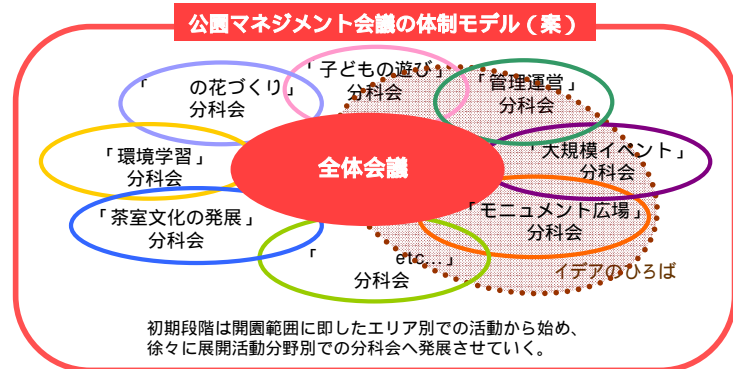
将来段階

運営管理の実践を通じて、基盤づくりで作上げた体制を様々な試行錯誤や検討を繰り返しながら発展させていき、アイデアのひろばの実際の展開形態に即した管理運営体制を構築する。

2) 公園マネジメント会議による公園管理運営（「暫定基本計画」より）

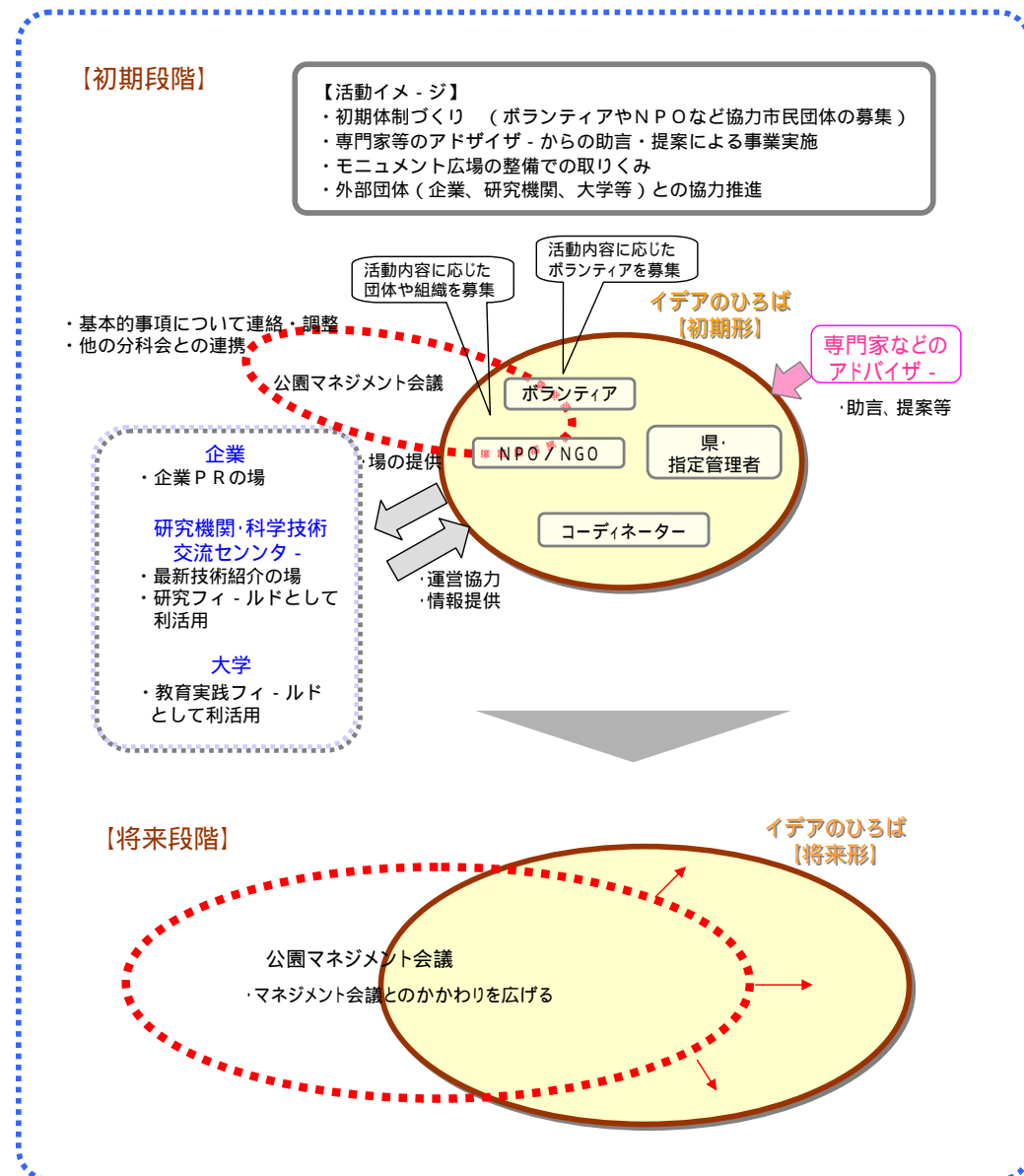
本公園では、暫定基本計画において、公園の計画・設計・整備・管理・運営等の様々な段階において県民参加を推進し、利用者みんなで公園を育てていくことを目指すものとしている。そのための体制として、県民と行政のパートナーシップにより構成される「公園マネジメント会議」を設置する。

「公園マネジメント会議」で、公園で展開する活動の分野別に分科会を設け、当初は活動エリアを中心とした継続的な実践のもとに徐々に体制づくりを進めていくものとし、いくつかの分科会を統括する「全体会議」をこの組織の中核機関とする。（「愛・地球博記念公園 暫定基本計画報告書」p.35・36、47・48 参照）



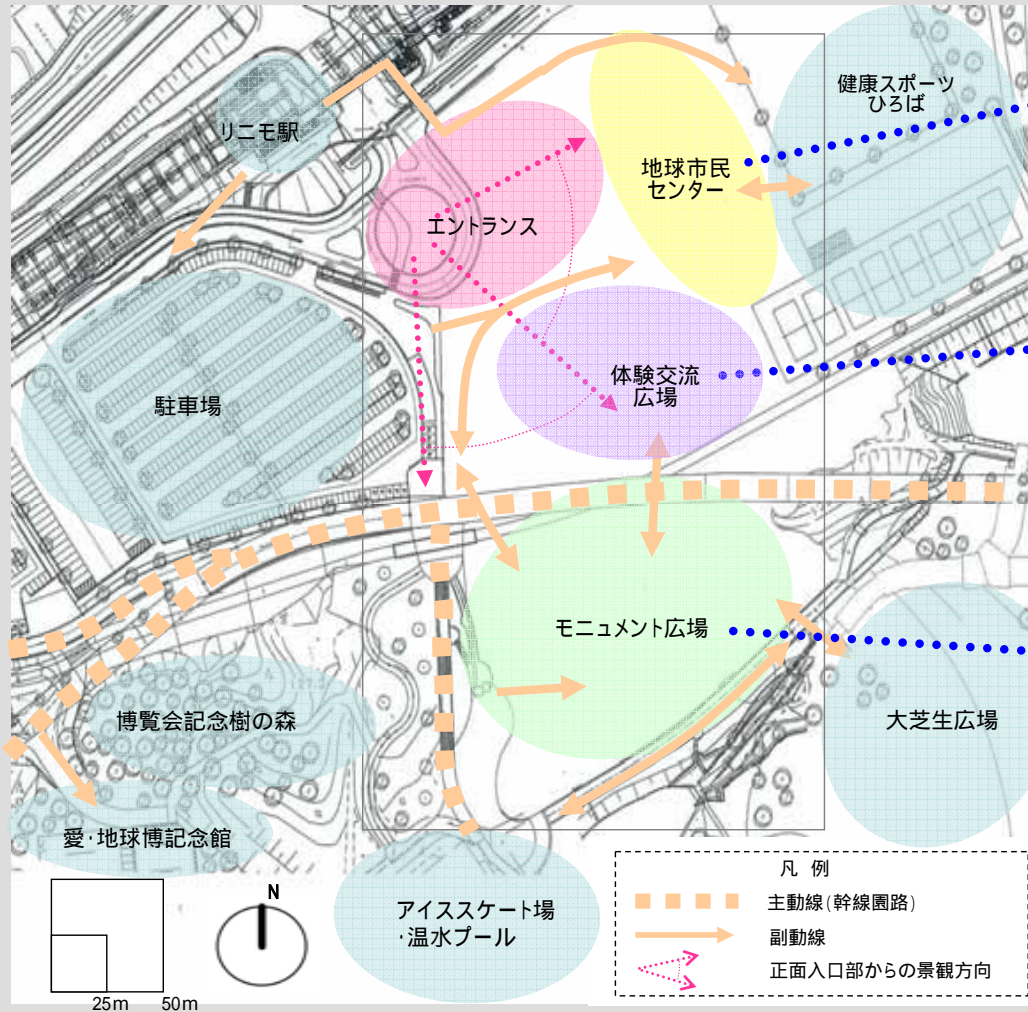
「アイデアのひろば」においても、博覧会開催記念や市民参加の活動に関わる分科会として、例えば「モニュメント広場分科会」や「大規模イベント分科会」などを設ける。初期段階では、アイデアのひろばの活動が公園全体のマネジメント会議の中心的な活動となる。

アイデアのひろばの管理運営体制発展イメージ



5 テーマゾーンの空間イメージ(参考)

1) 配置模式図



エントランスの景観

・東方向は地球市民センターの景観、南方向は大芝生広場方向の開放的な景観が確保され、丘陵地にある公園を意識できる景観とする。

動線

・体験交流広場のイベント開催時に、エントランスからモニュメント広場方向への動線が交錯しないように配慮した施設配置とする。

2) 展開イメージ

地球市民センター - の展開イメージ例
 ・多目的に利用できる屋内型の市民活動空間



体験交流広場の展開イメージ例
 ・広がりある空間を活用して各種市民活動を展開



モニュメント広場の展開イメージ例
 ・市民参加で博覧会を記念するモニュメント広場として整備



環境に配慮した整備(ゾーン全体)
 ・屋上緑化



・木材の使用を促進



・自然光や風を取り入れた施設